

# 長畝ふるさと通信



【2025年5月号】

## ■ 5月はとにかく田植

近年の酷暑による高温障害被害を避けるために、今年は1年のスタートを一週間程度早める予定でしたが、記録的な大雪のせいで結局耕耘作業に取り掛かれず、5月1日からの田植となりました。令和7年産米は周辺地域で廃業された生産者の田んぼの小作依頼が増え、主食用米の作付面積は約94ha(昨年まで飼料用米だった5haも今年は主食米に切り替えました)となりました。全国的なコメ不足の中、少しでも貢献出来たらいいなと思っています。



## ■ 少しでも収量を増やすために

せっかく米価が上がっても収穫量が増えなければ収益は上がりません。そこで、今年は経費が加算でもいつもよりちょっと高い肥料や資材を使うなど工夫しています。写真の資材は植物の成長に欠かせない硫黄成分が含まれており、苗の初期生育を改善するものです。苗箱1箱当たり約100gほど散布して12.8円程かかります。1箱当たりでみれば安い経費ですが今年の育苗箱数は21,100箱ですから27万円ほどの出費となります。肥料はいつもより1袋1,000円も高いヤツを試しに500袋使う予定なので50万円の出費・・・高いか安いかは結果次第です。



## ■ こんな経費も掛かたりします。



今年から小作を受けた田んぼ。「地主さん曰く、へご(佐渡弁で不細工の意)でどーもならん」とは聞いていましたが、いざ田植えに入ると至る所に目には見えない落とし穴的は深みが点在しており、田植機が埋まること、埋まること・・・トラクターでは引き上げきれず土建屋さんから大型重機をチャーターして救出する始末。1回数万円・・・田植機の修理に数万円・・・この田んぼを秋にしっかり治そうと思ったら業者に委託して100万円では済みません。無駄な出費がかさみます。

米価が上がって確かに収入は上がったのですが、それ以上に上がっているのが農業機械です。数年前まで800万円のコンバインは1,000万円を超え、田植機やトラクターも軒並み2割以上値上がりしています。人手不足の中、機械頼みの産業なので致し方ありませんが、儲かるのは農機具メーカーばかりです。最低賃金1,500円を目指すとか・・・必要性は理解しますが目眩がします。

## ■ ジョーダン君さようなら、また逢う日まで



1月からワーキングホリデーで来てくれたニュージーランドのジョーダン君が佐渡を去っていきました。4か月間、事務所に寝泊まりして佐渡を方々満喫する傍ら、農作業を手伝ってくれました。「来年もまた来るから冬服は置いていきます」と大きなトランクケースをひとつ置いていきました。「祭りのドラム練習します」と既に臨戦態勢です。当てにしていって待ってます。

## ■ コメ情勢はいつになったら落ち着くのか

農林大臣が不適切発言で辞任するなど、コメ情勢は未だに混乱しています。JA全中会長も「コメの価格は決して高いとは思っていない」と消費者の声を理解しようとしぬ連中に日本人の主食であるコメの流通を任しておけません。生産と消費が直接結びつく事が一番の安定につながるのではないのでしょうか。会員の皆様、これからもよろしくお願ひします。おかわりは自由です？